

戰捷之貿易
(下)

[illegible]

學生は大學に群集會社し激烈なる憤

[illegible]

執行部は今回露帝に死刑を宣告した

[illegible][illegible]

マシセイ氏歸國 郵遞司照佛國人

[illegible]

スロイド
ヒミ

海軍省の政務次官、取給部告示に違反するもの
 ければ日本には罰人なし、既に存続して面談
 を受ける由、
 海軍省駐米公使館、
 海州警備隊入敷
 事件の報告書簡、早七十七日六拾貳元は英
 金便と、韓通に要求せし朝國公使と交酬
 するも、應付せざる時給
 病院補助金の要求、他、東國公使は昨日知
 事府南大門外なる警察院に海關稅中より
 五十圓券にして密に捲二圓九十錢の機込
 止むると云々、國王は尊帝皇其能有
 者多く而して尊皇後は年二割三分の通常
 爲し得るべく、
 都郵官社の進所新路開始、
 對流甘を以て麗人船ニハ保護を許すに向
 御月を借帆せしむる等にて下野閣中又
 海兵は仰附御用船と解かれ長崎に渡被轉
 なき料、銃玉の上は北邊砲臺に置けり、

芳紀十六歳徳賢明の譽れ高

内府深翠の燭より火を發し、薪炭を
 の事として消防に手廻し、客に御平座平橋
 にも至りてより、中では時節が此様を傳
 たるも聞さなく、猶人々大騒ぎを爲し、
 幸ひ火は止し
 府院主事の愚事、監獄・元所監理中
 是其女將士内移に充て紙幣一百五十圓を
 本館爲替にて送附したるは、此通府院監獄
 には、封入せざるが故に、送附した
 其共同の初節、茶山強盜船にて新
 に入らる共、丸は總噸數四百五十噸

[illegible]

正官を日登常務秘書に
あらすして経緯の處多くは刀圭界片語に
の明々として語る處多くは刀圭界片語に
關の許容を喰ふ數だ、彼れを生儲けて日々
し、式調勝利を得んよりも、一年に二位
の生産をつくる華太を得るに如かずと、味
ふべき言にあらすや
平島醫局長、澤々として語る、曰く佛入
病、曰く流行病、曰く瘧疾混々として盡
る泉の如し而して氏の談には離かに花
實相いたる、氏が容貌と装束は莊重にして
小形に動々する風あり

郵便貯金は政府の掌するものにして最も安全なる貯蓄機關なり而して其趣旨と所は巨額の金員を貯け入れしむる之を以てして格別なる優遇を給ふせむの之故して生業の資本金と爲りて又は不慮の急用金と爲ししむるなりと
郵便貯金を取扱ふ郵便局、郵便取扱所郵便受取所は現在五千八百百餘箇所あり日本全國に亘るもののみならず

かに今日の隆盛を致したるは是

預けたり大なりしは頼みながらす。而して氏助夫人は頗る愛嬌に巧みなり。其の久保内院長、其の就者なる装束と其の酔ひたる言動とは公立病院院長の職に異ありしだけ一頭塊を移く、二方記者に語れる小當地開闢の如きは實に煩悶に似する問題たるや恥ふべからず。

石川院長、一或時は婦人の如く柔和にして成時は大丈夫豪傑也、氏は一見して實直剛也、其の言行の眞摯なる刀圭界稱ふ見るもの物也。

毎日新聞院長、ドナルド有田、醫士は一見して文藝界の紳士也、金時計をフリテ、其の洋服は若者あなし巧みなる釜川紳士界等に足る處也。

○通信貯金 初めに貯金の預入を爲さず。通行は十條以上の現金、印紙とを以て持行して係員に其旨を通じ預入申込に提出すときは直に金額を記入したる貯金票を下渡さるべし。又二度目より其通額金と番へ差出すのみにて何等の手續を待たず。何れの郵便局所までも預入を爲すを得べし。

○中野新聞 今聞道通に備へしに彼が最後利を諷ひ、學大馬風騷平是の演疾而

のんばわらず常に磊々落々来る者

志士とて其の奇也氏は戰國時代に生らしむれば
東洋片信　昨年末の不景氣は本春に入
て一顧だしく於更旋陷落以後に於て
是次の間待たねるが如く沼津、静岡、廣松、登
呂等の諸都府處に於ては大開口の云々
商店も潰れ小僧の暇ひ合に日を送ると大
有様にて遊樂の如き一日午後一時を過ぐ
れば寒空として人足を起ち一時二時云々
如斯には寒風の雷々の速より外は耳に遠

を編輯の改革は究竟主体的な強壓的
手段として如何か不整地を呈する所
にして字句は大觀守氏の知識人を刀筆界に見
みは共た奇也氏は戰國時代に生らしむれば
志士とて其の奇也氏は戰國時代に生らしむれば
東洋片信　昨年末の不景氣は本春に入
て一顧だしく於更旋陷落以後に於て
是次の間待たねるが如く沼津、静岡、廣松、登
呂等の諸都府處に於ては大開口の云々
商店も潰れ小僧の暇ひ合に日を送ると大
有様にて遊樂の如き一日午後一時を過ぐ
れば寒空として人足を起ち一時二時云々
如斯には寒風の雷々の速より外は耳に遠

ゝ吾人聞て恐懼値も能はず之を識め
期ならしむるに至ては國運の失体極矣夫
若夫　熊の羣威を作め法廷の前に出
りて皇室の尊嚴顯の擧め處なりとする
我國國體の益甚深大の痛恨事となす
▲上川　衝成不正事件兼總務委員會に
上奏議裁を仰ぐに決せり國難の外にあ
りて被に至らざるは抑も罪の罪なり
▲住吉　銀行招待符は抑も稍具簡儀の
なせり然も總務課長平和の廉潔凡見

三、每種福人也

うだ一抽一戰我々司き入れる如くや當座
をよんで居る中にて我事は即ち終つて了
行く。と懸て昔路にとも露筋が靜に開い
て申に神の月御様の會がしたと思ふと白鳥
の人の顔に去らぬ見た、するとイッテ神様が
來て書いて排へて下されたのだらう、誠に
妙、軟ツタケ美しい小はし露筋が居て居る
今之を一つ初ばたさす、其身は木に縛られ
手に纏う飛んでブーアと遊み人酒の方
に飛んで行く。
輕いノスと高く其膝の中を飛んで行か
ると行く、億萬里の遠方、雲と雲との間に
美しい阿比留のみへ黄金色な海、其事は別を

神降と治癒藥心藥の及かなからぬ最近の
際、日本赤十字會の事務長、田中一善の實
弟である田中紀事に曰く、去る一月、日本の實
日本醫學博士の許に至り臨陣して曰く、願く
ば一兒の難病を治せよと先生某の容体を問
へば曰く泥病です、何れも、直ぐまゝせん
と醫者の生を一時はバクに取られたらし
思ふた事ありしか、而して筆を取らず處方を
書かへて曰、生息丸を和して日服三日、
服用上は、蘇合紅丸を治すべしと老婦人言ひ
て、上に立派な養生先生、先生の間と湧
け、此藥がありませうと先生突て曰く、彼れ
は廣く人に出入を禁じて、遺尿した、五月廿四日

此酒は、其の味、香、色、ともに、
 他酒に勝る。且、其の價、
 亦、他酒に比し、廉なり。故に、
 此酒、世に、大に、流行す。


此證書爲し取換申中候間御用向和付
 下度
 大船上
 津田光壽
 三月卅一日
 福田酒場
 甲増兵衛

日本料理 本店

右御小賣共大勉強販賣
間多少不拘御用會費仰付度且御進
用ニハ至極高尚優美ノ品ニ
御買求ノ程奉命上候
大洲旅館裏
増永支

仕候 物 付續 店

吳天物却小賣
釜山南濱通一町丁目福島支店

告 廣 

(神戶市兵庫西出町) (同日神戶新聞)
嶋甚支店
電話二六〇番 (電報暗號) (電話)
鐵道 船舶 鑛山 紡績 鐵工 水道 精米 瓦斯
其他工業用品商
釜山入江町
嶋甚出張店

商標

가심약의가심약
음식위리지안근종리노약이
本主治胃腸病根經筋之新藥
一胃弱健全身轉快活非凡良劑

健胃
強壯

胃藥

製劑長島滿鐵賣藥會

京城泥鰌一號地ニ當在シテ
區等沈シテ法續事務ヲ取扱ハス
東京辨護士會
辨護士皆川廣濟

新荷到着で業務擴張

コロンテン、シャツ類
和歌山特産モンパジャツ
美濃、燒、尾州、燒、
伊萬里、燒、陶器類、
名古屋小間物、出雲燒、
陶器、漆器、一園環、

西ふい通町
十字屋本店
西ふい通町
十字屋第一支店
釜山驛分館
附屬製品館
十字屋第二支店
西ふい通町
十字屋第三支店

右新荷到着候ニ付御小賣共大割引販賣

精白米廉價販賣
石坂米共
信實仕候
南濱町海岸通四ツ角
西原商店
勉強御下宿伊豫屋
南濱二十八番地海岸通

唐津石炭
辨天町一丁目
國安商店
電話一七一

釜山素町南濱邊一丁目拾五番地
共生齒科醫院
會席御料理
仕出し春日
西曆三丁目(電二三三)

磨擦米廉價販賣
富平町
岡本商店
(電話三拾一番)

滋養牛肉ソツプ販賣
 一合貳錢 平田秀吉
 先日の廣告中一合貳錢は一合貳錢の誤
 材木建具 富平町精米所側
 廉價販賣 平松商店

三印醬油

大坂毎日新聞

萬朝報

一ヶ月代
四拾八錢
三拾錢

釜山北濱通

水野巖商店

幸町一丁目長手通
山口新蘭鋪
丁燁親切
南溪地
六番町柳井旅館
獸醫
富平町拾七番地
中尾祐作

活版印刷
 茶山西町三丁目郵便局裏
 立志社

會社第一銀行支店
（電話十一番）
一資本金 壹千萬圓
一積立金 百七十萬圓
明治六年設立
本店 東京
取遊畢

[illegible]

精養軒の牛乳、
滋養豊富
磯村牧場
牛乳
一板金
富士常平町
精養軒
銭電話五一
精養軒の牛乳
精良無比

齒科診察治療時間
砂糖麥粉
遠藤商店
電話架設中

自午前八時
至午後五時
但日曜日正午十二時限
齋患者此限ヲニ非ラズ
西町三丁目卅八番地
深江齒科醫院
(電話一百五十一番)

朝鮮唯一の新聞
 大正方面一手特約販賣所
 廣告印刷大勉強取才
 配達快速
 一月冊錢
 記談寫日
 論評鮮朝
 東京日々新聞
 報知新聞
 大阪新報
 朝日商會
 雜貨商

大坂朝日新聞◎大坂毎日新聞◎朝鮮

●釜山天氣豫報

北又西の風終

●陣淺相易

月